

Top Commitment

トップコミットメント

TDKの原点である 磁性技術の強みを活かして 社会課題の解決に 貢献していきます。



将来的な社会課題解決に貢献

私たちTDKは、来年で創業から80年を迎えます。この大きな節目を前に、絶えず変化を続ける時代状況に対応しながら、さまざまな分野で社会課題の解決に貢献していきたいと決意を新たにしているところです。

たとえば環境面では、よりエネルギー効率の高い製品を世に送り出し、社会全体のますますの省エネに寄与する。蓄電池などに欠かせない電子部品の提供を通じて、風力や地熱など再生可能な自然エネルギーの普及に貢献することも、重要なミッションとして位置付けています。

自動車の分野においても、ハイブリッド車や電気自動車などのエコカーが、今後ますます一般的なものになっていくことが予想されます。それはそのまま、動力源がエンジンからモータ化するということであり、つまりは自動車の一層の「電子化」が進むということ。加えて、高齢化社会を背景に、センサを利用して事故を回避する自動走行機能などについても今後ニーズが高まっていくことは間違いありません。そうした変化とともに、電子部品メーカーである当社の果たせる役割はさらに大きなものになっていくと考えます。

同様に、高齢化社会を背景にした飛躍的な技術革新が期待されるのが、介護や健康維持の分野です。人間に代わって介護を行うロボットや、加齢などによって衰えた機能を補うウェアラブルな機器の開発が、今後急速に進んでいくのではないのでしょうか。当社も、そうした製品の部品開発を通じて、高齢者や障害のある方、そして介助者も含めすべての人のクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）の向上に貢献していきたいと思えます。

すべての人が「つながる」世界へ

また、現在拡大が懸念されているデジタルデバイドの解消も、TDKグループが貢献できる課題の一つだと認識しています。特に今後、インターネットを通じたネットワークによって、世界中のどこ、どんな場所においても、同じ情報を瞬時に得ることが可能な社会が現実のものになっていくでしょう。そうした世界中が「つながる」社会において、年齢や国籍、居住地や経済的な状況によって「つながり」に格差が生まれないように、誰もが必要な情報に自由にアクセスできるように、安価で高性能な部品

の開発・提供に一層尽力していきたいと思っております。

さらに、材料や部品を仕入れて製品をつくり、メーカーに供給するという「川中企業」として、サプライチェーン全体にCSRの考え方を取り入れていくこと、とりわけ紛争鉱物の問題に積極的に対処していくことも、当社にとっての重要な社会的責任だととらえています。人権侵害や非人道的行為に関わる組織の資金源となるような鉱物のサプライチェーンからの排除を徹底すべく、一社だけではなくJEITA（電子情報技術産業協会）などの業界団体への働きかけを通じて、業界全体で力を入れていく所存です。

多様な人材の能力が活きる組織へ

こうした社会的課題の解決に貢献できるような取り組みを加速させていくためにも、多様な人材を活用していくこと（ダイバーシティの推進）が、ますます重要です。売上においても生産においても海外拠点の存在感がますます大きくなっている状況を踏まえても、海外の人材登用をさらに積極的に進めていく必要があるでしょう。国籍や人種、そして性別などに関係なく、能力の高い人材をどんどん登用していけるような仕組みと方針を早急に確立していきたいと思えます。

たゆまぬ挑戦を継続する

当社の80年近い歴史は、磁性材料である「フェライト」の製品化から始まりました。そこに原点を持つ企業として、特に磁性技術の強みを活かして、さまざまな分野で必要とされる製品をタイムリーに供給し、社会に貢献できる企業を目指します。当社のDNAともいえるべきそうした方向性を、今後も追求していきたいと考えます。

今後、エレクトロニクスからスピントロニクスへと、「磁性」の可能性の広がりとともに、TDKグループの可能性もさらに広がっていくはずで。その流れを止めず、「世界最強の技術者集団」を目指して、たゆまぬ挑戦を続けていきます。

TDK株式会社 代表取締役社長

上 釜 健 夫